



三つのウィン

永田 円了

Win - Win - Win

一つのウィン “Win” とは、私が勝ち、あなたが負ける、まさに熾烈な競争社会 “Win - Lose” の有様のことである。二つのウィン “Win - Win” とは、例えば、援助交際と呼ばれる売春行為、私も OK、あなたも OK、ならばいいじゃないか、と言う。しかしそうはいかない。双方が良くても魂が悲しむ。



三つのウィン “Win - Win - Win” とは、例えば、ゴルフのタイガーウッズを例にあげよう。ゴルフの試合では、グリーンでの一打が勝敗を決める。相手のミスが自分の勝利につながる事が多い中、タイガーウッズは、逆に相手がミスしないように願うと言う。何故なら、相手のミスを願うことで自らの魂が悲しみ、結果いいショットは出ない。その逆に相手がミスしないように願うことで自らの魂が喜び、グッドショットが生まれると言う。これが三つのウィンの風景である。



オバマ大統領 三つのウィン

2009 年 6 月のカイロ大学でのスピーチで、オバマ氏は次のように述べた。

私はイスラムへの偏見と戦っています I Win
あなた方(イスラム教徒)も、米国(キリスト教徒)への偏見を改めてください
- You Win
そうすれば、イスラム教徒とキリスト教徒との新たな関係がスタートします
- Eco & Energy Win



ソーシャル・ビジネス

ソーシャル・ビジネスとは、利益を社会的な目的のためにつかうビジネスのことである。30 年前に貧困なき世界を目指す銀行家、ムハマド・ユヌス氏(68 歳)が、無担保での少額融資「マイクロクレジット」を始めた。当時 42 人の村人に、27 ドルを貸したことからスタートであった。現在借り手は 800 万人、1 ヶ月 100 億円のビジネスが無担保の融資で行われている。利潤最大化を目的とした従来のビジネスが、実質経済から離れたマネーゲーム(Win - Lose)に奔走した結果、崩壊の一途を辿ったことは、昨年のリーマンブラザーズの経営破綻、世界の株価急落に見る通りである。

では、ユヌス氏のグラミン銀行が成功した理由はなんだったのか。貸し手は借り手が成長していくのを見る喜びを味わう(Win)、借り手は自分の無限の能力を伸ばす(Win)、結果双方の魂が喜び(Win)という本来のエネルギー循環が行われたのである。これこそを、エコノミー “Economy” (エコ=いのち、を循環させる)と呼ぶのである。

年度末にユヌス氏が役員総会で一番に報告することは、収支報告ではなく、会社が一年間に救った栄養失調の子どもの数であり、そして来年は何人救えるかという次年度計画である。ソーシャル・ビジネスという新しい資本主義のかたちが立ち上がっている。

フェアトレード

フェアトレード (Fair Trade) とは、発展途上国の原料や製品を適切な価格で購入することを通じ、立場の弱い途上国の生産者や労働者の生活改善と自立を目指す取り組みのことである。

現在のフェアではないトレードの事例を見てみよう。例えば、一杯 330 円のコーヒーの利益分配をみて驚く。小売業者・輸入業者の取り分は、296 円 (90%) に対し、コーヒー栽培農家の利益は僅か 3 円 (1%) である。(『おいしいコーヒーの真実』Black Gold、2006 年英米合作映画より) 発展国は勝者(Win)、発展途上国が敗者(Lose)の実体である。

そんな中、フェアトレード事業は生産地の人々が自立して生活できるよう、適正な価格で取引をする新しい貿易のあり方を推進しているのである。売り手も Win、買い手も Win、そしてその商品を楽しむ側の魂も Win する、三つのウィン(Win - Win - Win)の世界が確実に広がりつつある。

講座では、フェアトレードの会社を 20 代で立ち上げた、山口絵理子(28 歳)の事例も紹介する。(NHK BS1 『きょうの世界』5/22/2009 より)

